■今月の特選句

2016年11月

隠す爪持たぬに鷹のふりをする　津田このみ

ふりをするのはよくあることです。資質がなくても防衛大臣になったり、元都知事は豊洲のことを覚えてないふりをしたり。

ブルドーザーに裳裾踏まれて立田姫　西をさむ

「佐保姫は春立ちながら尿をして」というのがありましたなあ。滑稽句の元祖でした。立田姫は裳裾踏まれて立ち往生ですかな。

一本に大がかりなり松手入　山本　賜

職人の頭数で経費を算出するわけですから、人足をたくさん抱えている親方は、松の木が見えないほどに人を使う。松の木がお気の毒。

遮断機の監禁ほどけ秋の空　稲葉純子

監禁とは大げさな。しかし、そこが面白い。遮断機が上がって秋空の広がりがそこにある。監禁という言葉ひとつで心を描けましたね。

二股の恥じらひ足のだいこ抜く　森岡香代子

二股大根は恥ずかしい。恥ずかしがるのは大根自身か、抜く人間か。あるいは八百屋さんか、買う主婦か。丸ごと煮て男に食べさせてみるか。

彼の世への片道きつぷ彼岸花　本門明男

彼岸というのは「あちら」ですな。此岸は「こちら」俗世ですな。あちらは、天国か地獄かにもよりますが、往復割引かなんかありませんかねえ。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

お医者さんごつこよ桃に聴診器　小林英昭
・・・この表現はギリギリだべな

へばりつく夏をはがして秋に入る　金澤　健
・・・脚と腰にはサロンパス貼り

残る蚊に糖尿病の血を恵み　青木輝子
・・・来季同病蚊と憐れむか

泥鰌掘る泥鰌汚染はありません　藤森荘吉
・・・土壌が汚染ならば泥鰌も

女房も共に老いたり秋刀魚焼く　越前春生
・・・老いたふりして女房は街へ

税税とうめく家計簿そぞろ寒　柳　紅生
・・・家計簿までも擬人化したか

近道を避けて働く蟻の列　ひがし愛
・・・蟻がウォークするとも見えず

人間に馬乗りになる熊も居て　下嶋四万歩
・・・空手の技に熊の眼つぶし

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

台風の前線に載り雨雨雨　山下正純
・・・そそのかしたは八代亜紀かも

歳時記のどんじりにゐて吾亦紅　伊藤浩睦
・・・なるほど奴は控えめだわな

コロツケの衣ざらざら冬に入る　氏家頼一
・・・おでんの鍋をでんと構えて

伸びしろの衰え知らず敬老日　久我正明
・・・ズボンの裾を伸ばしたのかな

親馬鹿は死に至るまで小判草　田中早苗
・・・どうせあの世に持ってはゆけぬ

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

	丸くなり猫にも好かれ生身魂	青木輝子
【佳作】	シルバーの婚活盛ん返り花	青木輝子
	醜女らに黄金比良坂桃投げて	青山桂一
	夏逝くか砂も移ろふ風の紋	青山桂一
【佳作】	ひたすらに青から赤へ柿生きよ	青山桂一
	つくつくし聞く美しく面しろく	赤瀬川至安
	幸せにすると誓ふや唐辛子	赤瀬川至安
【佳作】	叱る女二百十日とも二十日とも	赤瀬川至安
	虫鳴いて泣かぬ女になりにけり	井口夏子
	きちきちの車中泊りの夜が明ける	井口夏子
【佳作】	露草にびんたの雨や五六粒	井口夏子
	色即空久米仙人は熱中症	池田亮二
【佳作】	読書の秋コンビニで買う不倫の書	池田亮二
【佳作】	驚愕の八月尽の電気代	伊藤浩睦
	金風より金封が好き先生は	伊藤浩睦
	憐みを押し売りしてる冬の蝶	伊藤洋二
【佳作】	激震の秒読みしつつ山眠る	伊藤洋二
	熱燗のチンとコラボのお綸かな	伊藤洋二
	曲がつてもまがらなくてもへぼ胡瓜	稲沢進一
	流星や人工衛星かも知れぬ	稲沢進一
【佳作】	葱刻む小さなこともコツコツと	稲沢進一
【佳作】	秋の卓季語のいろいろ並べたる	稲葉純子
	無愛想も個性のひとつ秋麗	稲葉純子
	敬老日客が相応しボランティア	井野ひろみ
【佳作】	ポケモンGO小母さん夢中西日受く	井野ひろみ

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	おしゃべりの音譜の跳ねる秋桜	上山美穂
	リカちゃんの人形買ひにサンタゆく	上山美穂
	バスの窓鳩より高く高く飛ぶ	上山美穂
	綿虫に吊られてゐたり石仏	氏家頼一
【佳作】	冬の字の風邪引きさうな字面かな	氏家頼一
【佳作】	断捨離を記憶に使ひ秋の暮	梅岡菊子
	尾をふるや催眠術の高音百舌鳥	梅岡菊子
	魂や紅葉の色に吸ひこまれ	梅岡菊子
【佳作】	秋の雷児に火をつけて走りけり	越前春生
	西瓜食べ突つ張り通す男かな	越前春生
【佳作】	拙宅を丸見えにする落葉かな	岡野　満
	名刹のライトアップや紅葉泣く	岡野　満
	強面を詩人にさせる月夜かな	岡野　満
【佳作】	七輪で焼いてくれろと秋刀魚かな	小川飩太
	そおおおと乗る体重計や秋深し	小川飩太
	七行に余る自分史子規忌かな	小川飩太
【佳作】	秋めくも仕舞い込まれしパスポート	奥脇弘久
	荒れ野ゆくやけに目に付く女郎花	奥脇弘久
	ちちろ鳴く夜なべする母疾うに亡し	奥脇弘久
	容赦なく地蔵めがけて木の実落つ	加川すすむ
	妻と娘の目配せしきり石榴落つ	加川すすむ
【佳作】	賽銭の乾きし音や神無月	加川すすむ
	台風の置き土産なる青い空	加藤澄子
【佳作】	阿蘇怒り祭の街は灰神楽	加藤澄子
	リオ五輪愛国心の絶叫の	加藤澄子
【佳作】	台風や鷗いやいや横歩き	金澤　健

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	子どもでも釣れると云はれ鯊の潮	金澤　健
【佳作】	台風の苞はめいわく土砂の山	川島智子
	湯につかり初鉦叩きく夜かな	川島智子
	秋暑し混む江の電の中国語	川島智子
【佳作】	自然薯の不自由を不自然に掘る	久我正明
	オクラ咲いたか過払い金戻つたか	久我正明
	女王蜂出ては来ぬかと蓮の実	工藤泰子
【佳作】	いつのまに天はすぐそこ曼珠沙華	工藤泰子
	空描く弘法麦と猫じやらし	工藤泰子
	じゃこ鯨いわしも泳ぐ秋の空	小泉花子
	運動会席取りの列パパばかり	小泉花子
【佳作】	天辺に生れば運命の木守り柿	小泉花子
	秋の蝶楽屋の紐に羽根やすめ	小林英昭
【佳作】	引力に負けしふりする林檎園	小林英昭
【佳作】	名を捨てて軸を取りジャムになる林檎	下嶋四万歩
	立待や駅に北口南口	下嶋四万歩
	裸の子戯け摘むやさをふぐり	壽命秀次
【佳作】	パトカーの警ら遊覧紅葉狩	壽命秀次
	台風に負けぬポケモンGOの輩	壽命秀次
	食欲の秋が言ひ訳リバウンド	白井道義
【佳作】	掛け持ちの病院回り秋日和	白井道義
	裏をかく如く迷走台風来	白井道義
【佳作】	来賓の席順悩む文化祭	鈴鹿洋子
	名月や女神差し出す金の斧	鈴鹿洋子
	衣替え雨降り仕事にとっておく	鈴木和枝

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	砂利踏む音が好き宅配便の青年	鈴木和枝
	宅配便の青年に褒められてコスモス	鈴木和枝
【佳作】	髪洗い鏡見ながらヘアバンド	鈴木哲也
	夏帽子黒スニーカー歩いてく	鈴木哲也
	汗流し黒靴下に指通す	鈴木哲也
	歳の差を超えて夜学や酒におう	髙田敏男
	スカンクや色無き風を臭わせて	髙田敏男
【佳作】	冬支度猫の温もり計算に	髙田敏男
	伏魔殿空洞ありや暮の秋	高橋きのこ
【佳作】	少子化や運動会はお昼まで	高橋きのこ
	運動会ババの寝坊はゆるされず	高橋きのこ
	美しき桃の色あひなりにけり	田中　勇
	秋蟬の猫につかまりをりにけり	田中　勇
【佳作】	秋茄子を食ふ独身のをんなかな	田中　勇
	旅立ちの準備をさをさ沙羅の花	田中早苗
【佳作】	子も孫も曽孫も抱き占め八つ頭	田中早苗
	惚けじやない忘れ上手よ生身魂	田村米生
【佳作】	集散を楽しんでゐる稲雀	田村米生
	若嫁に贈物する敬老日	田村米生
	神の旅亭主の飯は店屋物	津田このみ
【佳作】	村芝居大根役者も数のうち	津田このみ
	冬瓜の旨煮で足りる肴かな	飛田正勝
【佳作】	友らみな愛妻介護敬老日	飛田正勝
	行徳の寄席で目黒の秋刀魚食ふ	飛田正勝
	思い人雲の彼方や秋の風	中井　勇
	年一度松茸ご飯あと幾度	中井　勇

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	近道をスマホでさがす秋遍路	中井　勇
【佳作】	栗の皮ひんむく顔もひん曲げて	新島里子
	黄落の一樹恍惚われも恍惚	新島里子
	母の日父の日はては敬老日でさらば	新島里子
【佳作】	唐黍にぴたりと馴染む入歯かな	西をさむ
	蕗掘のうんとこしょっと屁をひれり	西をさむ
	コスモス生け迷うワインの赤白ロゼ	花岡直樹
【佳作】	法師蝉神輿とともに宮入りし	花岡直樹
	鰯雲食えぬ肴でビール飲む	花岡直樹
	敬老の日のめんだうや引きこもる	原田　曄
	秋夕べ公園へ吾子捕まへに	原田　曄
【佳作】	生ゴミとときには云はれ夏果つる	原田　曄
	新しきスリッパの逃す油虫	ひがし愛
【佳作】	ノースリーブ着て名ばかりの寒露の日	ひがし愛
	台風来学校休み塾に行き	久松久子
	高校生巫女に変身月の宮	久松久子
【佳作】	世界中移住自由や渡り鳥	久松久子
【佳作】	優しさのふうわり軽し赤い羽根	日根野聖子
	ふるさとの山遠きかなきのこ汁	日根野聖子
	男らの血のたぎるかな秋祭	日根野聖子
	恋心つのれば色を増すもみじ	廣田弘子
【佳作】	蟷螂の神を怖れぬ面構	廣田弘子
	豊の秋猫残飯をまたぎゆく	廣田弘子
	爽やかに試作玩具の会議室	藤岡蒼樹
	ふるはせて鳴く秋の蚊や蛍光灯	藤岡蒼樹

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	缶詰に軟骨化する秋刀魚かな	藤岡蒼樹
	爽やかに絵文字で伝ふ無事安産	藤森荘吉
	昼下がり秋には秋の眠気あり	藤森荘吉
【佳作】	ためらうて秋の入口通り過ぐ	藤原セツ子
	葉見ず花見ず里山の赤い帯	藤原セツ子
	こほろぎの夜毎夜毎のコンサート	藤原セツ子
	腰重し長き居座り秋の雨	細川岩男
	秋霖や小走り人はバス停へ	細川岩男
【佳作】	旬秋刀魚ちょい持ち上げて太めをば	細川岩男
【佳作】	零余子飯ほくほく味の母の味	本門明男
	秋茜琵琶湖疏水のたうたうと	本門明男
	鬼皮を友とむきたる栗ごはん	松井寿子
	愛犬と祓はれてゐる秋祭	松井寿子
	皿洗ふ音に合はせて虫の声	松井寿子
【佳作】	ごみ屋敷のゴミがうれしい穴まどい	松井まさし
	金木犀夢の中では香にむせて	松井まさし
	政治家はみな似非に見え赤い羽根	松井まさし
	残る虫枕元まで来て鳴くか	南とんぼ
【佳作】	奥さまは奥に居ません月今宵	南とんぼ
	秋風や点眼下手の嘘上手	南とんぼ
	野分あと呆けし空の残りけり	百千草
【佳作】	鳳仙花母の昭和に会ひに行く	百千草
	稲雀勝負のつかぬ根比べ	百千草
	鰯雲青いくじらが追いかける	森岡香代子
【佳作】	アリババの秘宝のひとつ割れ石榴	森岡香代子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	銀杏の隠れん坊や茶碗蒸	八木　健
	利き酒の新酒含んで捨てられる	八木　健
	通草とるための道草下校の子	八木　健
【佳作】	道草の道に草あり帰り花	八洲忙閑
	骨折の妻の退院帰り花	八洲忙閑
	返り花先祖返りと思ひけり	八洲忙閑
	幸せの芽が出ますよう大根撒く	八塚一青
【佳作】	定食の主役を食らう茸飯	八塚一青
	芋煮会おいしい訳が揃つてる	八塚一青
	七光り放ってをりぬ土用干	柳　紅生
【佳作】	体脂肪四捨五入する豊の秋	柳　紅生
	メロディに合はす尻つぽの秋子猫	柳澤京子
	コスモスを殺して再生押し花に	柳澤京子
【佳作】	一本のフェンスにもたげる冬薔薇	柳澤京子
	古代より大袈裟になく行行子	柳村光寛
	師の好きな花だけ選び墓詣	柳村光寛
	夜長とて短きものよ手酌酒	柳村光寛
	朝顔の縦列駐車枝垂れ窓	山下正純
【佳作】	一歩一歩数多バツタの飛翔せり	山下正純
	エアコンの掃除し終はり秋の昼	山本けい子
	行く道の迷ふ事無し吾亦紅	山本けい子
【佳作】	飛び起きりやこむら返りに秋祭	山本けい子
	魚籠干した家から匂ふ鰯かな	山本　賜
【佳作】	宿帳に名前を書いて虫の宿	山本　賜
	知事の威と都議会の乱すさまじき	横山喜三郎
【佳作】	雑草の恩返しかも虫しぐれ	横山喜三郎
	虫声の中に住みをり庭荒れて	横山喜三郎
【佳作】	腹膨れ飛び立ちかねし稲雀	吉原瑞雲
	新走すすめ碁敵返り討ち	吉原瑞雲
	踏み外す五音階段秋の宴	吉原瑞雲

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。